

保育園の創立時、「子ども像なのか、保育目標なのか…」と論議していたとき、初代園長から、「なぜ、理念をつくらないのか」と、一喝されました。

「エーツ、理念?」「理念つてナニ?」という水準の私たちでしたが、「乳幼児期は人間形成の土台であり、青年期を見通した保育が大切」と考えていたので、私たちが願う青年の姿を保育理念にすることにしました。そして、「人間とは何か?」、「脳のしくみ」、「小中学生や若者の現状、社会問題、世界の紛争」など、学習し合いながら、数年かけてつくりあげたのが、『自然を愛し 未来を切り拓く 逞しい人間像をめざします』という理念でした。

この理念を柱に、思春期を見通した保育のあり方を、試行錯誤しながら実践してきました。

一方、保育園を旅立った子どもやその父母が羽を休める場がないことを知り、保育園が「心のふるさと」になれないか…という模索もはじまりました。そんな中から、「十五歳の集い」、「卒園児のクラス会」、「小学校との連携」、「卒園児の親の会」、「三者（父母会・卒園児の親の会・職員）合同夏祭り」等の行事が誕生し、行われるようになってきました。

今では、現役の親たちが、訪ねてくる卒園児

や卒園児の父母と触れる中で、子育てに見通しをもてるようになったり、保育の現場でも、いたずらっ子が凛々しい若者になって来園する姿に、幼児から思春期への見通しを学ばせられています。

記念誌『三十年誌』に、二十代になる卒園児が次のようなメッセージを寄せてくれました。

「卒園して十五年も経つのに、不思議と『あ

う、大抵のことには驚かずに、何でもできる気がしているのだ。

あじさい保育園は、私の原点だろう。保育園での時間は、私を構成しているコアとなる部分を形成している。私の人生でもっとも大切な時間であり、なくてはならない日々であった」（二十二歳・大学生）「抜粋」

理念は、本当に保育を支えるエネルギー源。

風

私の保育を支える エネルギー源

北海道帯広市・あじさい保育園園長
藤本史代

じさい』ですごした日々を鮮明に思い出すことができるので。

『楽しかった!』なんて一言でいい表せないほど濃密な時間が、そこには流れていました」

(二十二歳・会社員)「抜粋」

「私は、あじさいっ子! こんなことくらいへいちゃらさ!」って、卒園して以来、私は幾度かこんなことを思っていたように思う。そ

つくつてよかった!!

初代園長の一喝に「感謝!!」です。

父母の皆さんには、理念があつての保育内容であることを必ず伝えるようにしています。

どんなときでも、

「理念に基づき、立ち向かえば解決できる」これが、私の保育を支えているエネルギー源です。